

福音の園だより

【第二十七号 二〇〇七年三月 五日発行】

介護保険事業者指定 一一七〇四〇三八一

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所 協会会長賞」受賞

350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一

特定非営利活動法人 福音の園・埼玉事務局

☎ 049・230・1111

FAX 049・230・1112

ご家族の声

母の笑顔に触れて

母の福音の園での生活も、二年半が過とうとしています。スタート時からの入居者ということでも一番長い滞在であることをホーム長さんより聞かされ、感慨深いものがありました。この間の家族の気持ちは、母は福音の園に居るのだから安心していられる、と言うことでした。

しかし、何が起るかわからない、というのが人間であり、人生ではないでしょうか。昨年の夏、母がホーム内で転び、大腿骨を骨折し、折れた部分と骨盤を金属ボルトで固定する手術を受けたのです。九〇才の母にとって、これは致命的な事になるかも知れない、という思いが家族の頭を過りました。

しかし、これも杞憂に終わりました。ホームの皆様の暖かいお世話を受けて、母の体力、気力が日増しに回復し、今では骨折したことを忘れてしまいう程に、母の表情にも以前の明るさが戻ってきたのです。このホームには、人に安心をあたえ、

生命を活かす何かがあるなということを感じております。(D・M)

新年度を迎えるにあたって

―信頼されること・信じること―

求められる高い職業倫理

グループホーム福音の園・川越 ホーム長 杉澤卓巳
十七年前、老人福祉の現場に飛び込み初めて耳にした『マズローの八つの欲求』。人は例外なく
一、食べること 二、排泄すること 三、呼吸すること 四、眠ること 五、清潔でいること 六、愛されること 七、信頼されること 八、信じること』の八つを欲求している。認知症対応型グループホームで三年目を迎えた今、信頼されること・信じることの大切さを痛感している。

認知症の方は、次から次へと記憶が失われていく(消えていく)という喪失感に取り囲まれ、喪失体験から「あれが無くなった」「これが無くなった」「盗まれた」と訴えられる。交代勤務とは言葉、職員は「無くなった」「盗まれた」という言葉に四六時中さらされながら対応しなければならぬ。だからこそ、他の介護施設職員以上に、高い職業倫理が求められている。また、この重圧から、他の介護施設職員以上に「信頼されること」「信じること」を欲求している。

「心に触れる優しい支援の実践」「希望への支援の実践」は、信頼されること・信じることが、ご利用者様と職員、ご家族様と職員との間に確立された時に達成されることを確信しつつ、確かな援助技術に基づいた「優しさ」と、福音に基づいた「希望」をお届けできるように前進したい。

ホーム内実習報告から

新人スタッフには、初めの一ヶ月間「実習報告」をお願いし、報告日誌にホーム長がコメントしています。後日「スタッフ紹介」欄に登場、自己紹介していただくとし、その一部を紹介いたします。

○月○日(火)・今日は語りかけてばかりで一方的になりがちだったので聞く事をもっと意識したい。△「話した言葉をオウム返しすると良い反応があった」との報告から、新しい発見や気付きを通して達成感を意識できたらしめたもの。ホンモノを目指して下さい。

○月○日(水)・食事介助等一人に集中してしまうのもっと広く利用者さんを見る事を心掛けたい。△「適度なコミュニケーションを心掛けたい」との報告から、ともすると親近感を得たいと思う余り○○ちゃん呼ばわりの錯覚に陥ることがあります。あくまでも人生の大先輩という「尊厳」を大切にし、その上で親しくなれる「生活作りのパートナー」を目指して下さい。

○月○日(日)・見る↓気付く↓考える↓対応する↓振り返るの流れてもっと良く利用者さんを理解したい。△対応が難しく手こずる方が多いですが、それをストレスに思うか、逆にこちらのスキル向上と受け留められるかがプロへの分岐点。「動きたくなる環境作り」を目指して下さい。(ホーム長 杉澤卓巳)

御礼 雑巾 K・I様(武蔵村山市)

一緒にお世話下さる方、募集中!

- ▼パート介護職員(ヘルパー二級有資格者大歓迎)
- ▼パート調理職員(料理の好きな方大歓迎)
- ▼ボランティア(散歩、話し相手、園芸作業、他)